

二、大東亞各地

(一) 比島ノ臨戰體制強化

(1) 戰局ノ緊迫セルニ鑑ミ、「ラウレル」大統領ハ、今般内閣ノ改造ヲ斷行シ、政府ノ陣容強化ヲ圖ルコトナリ、二十四日、内相ニ「シノン」法相、法相ニ「パレデス」土木交通相、土木交通相ニ「ホセ、バエス」參議府議員、經濟相ニ「サビト」書記官長、書記官長ニ「アベリヨ」外務次官ヲ任命シ、經濟企劃局總裁「マヌエル、ロハス」ハ、無任所大臣ヲ兼ヌルコトナレル旨發表セリ。右内閣改造ノ主眼點ハ、從來大統領ノ管掌下ニアリシ内務經濟兩省ニ、專任大臣ヲ置キタルコトニシテ、右ニヨリ大統領ノ負擔ヲ輕減スルト共ニ、政府ノ重要政策ノ樹立、實行、並ニ、緊急重大措置ニ、遺憾ナキヲ期セントセルモノナリ。

(2) 更ニ「ラウレル」大統領ハ、地方行政ノ把握ヲ強化シテ、今後ノ事態ノ變化ニ對處スル態勢ヲ確立シ、且地方政府相互ノ聯絡ヲ十分ナラシムル爲、八月二十八日附條令ヲ以テ、「マニラ」市外四州ヲ除ク、全國各州竝ニ特別市ヲ七行政地區ニ分割、各々長官ヲ設置シ、其行政ニ關シ、大統領及各省大臣ヨリ委任セラル可キ權限ヲ代行セシム可キ旨發表セリ。

尙、「マニラ」市及其周邊ニ在ル「ブラカン」、「カビテ」、「リサール」、竝ニ「バラワン」州ハ、中央政府ノ直轄下ニ殘置セラル。

(二) 泰國情勢

(1) 「アバイウオング」首相ハ、軍最高統帥問題ニ關シ、十九日、「ロツブリー」ニテ「ビブント」會見

セルモ、問題解決ニ至ラザリシ模様ナリシガ、泰國政府ハ、二十四日、「ラデオ」ニテ、(イ) 攝政令ヲ以テ「ビブント」前首相ヲ國政顧問ニ任命シ、(ロ) 最高軍統帥官及副統帥官ヲ廢シ、新ニ「パホン」大將ヲ總軍(陸海空軍)司令官ニ、「シナート」中將ヲ總軍副司令官ニ任命、(ハ) 「パホン」大將ヲ陸軍司令官ニ任命、(ニ) 「シナート」中將ヲ國防副大臣兼陸軍副司令官ニ任命、(ホ) 「パン、ナート」少將ヲ海軍少將ハ、艦隊司令官ニ任命セラレタル旨ヲ發表シ、軍首腦部ノ變更ヲ斷行シ、右發表ト同時ニ「パホン」總軍司令官ハ、軍及警察ニ對シ、「アバイウオング」首相ハ國民ニ對シ、夫々告示ヲ發表セリ。

最高統帥官廢止ノ成行ニ關シテハ、政府側ノ公正且巧妙ナル措置ニ依リ、今日迄ノ處不穩ノ形勢ナキ模様ナリ。

(三) 新疆省主席更迭問題

新疆省主席盛世才ハ今般辭職セルガ、右ニ關シ、八月二十九日、重慶外電ハ左ノ通り報ジ居レリ。  
(一) 盛ハ過去十二年ニ互リ強力政治ヲ行ヒ來タルルガ、彼ガ蘇支友好關係ノ維持ニ失敗シ、殊ニ彼ノ新疆省蘇聯人顧問及其他蘇聯人ノ取扱ヒ振リハ、重慶側ノ頭痛ノ種トナリ居リタルモノニシテ、今回ノ省主席更迭ハ、重慶政府ノ蘇支關係改善ノ意圖ニ基クモノナリ。尙盛世才ノ後任ハ蒙蘇委員會委員長タル吳忠信(國民黨ノ古株)ナリ。

(二) 新疆省駐屯軍(從來事實上盛ノ私軍)ハ、新ニ軍事委員會ノ指揮下ニ配屬セラレ、管テ盛ノ占メ居リタル新疆省防衛軍總司令タル職制ハ廢止セラレタリ。

(三) 盛ハ新ニ農林部長ニ任命セラレタルガ、右ハ差シタル重要性ナク、彼ノ政治的勢力ノ衰退ヲ意

味スルモノナリ。

三〇八

### 三、歐洲戰況

#### (一) 北佛戰線

米軍ハ、二十五日、南方ヨリ巴里市内ニ突入、市内ニ蜂起セル佛國內抵抗軍ト呼應シテ、獨軍トノ間ニ激烈ナル市街戰ヲ演ジ、之ヲ東北方ニ壓迫セリ。「ドゴール」ハ巴里ニ入り、二十五日午後七時、市應ノ「バルコン」ヨリ、第四共和國トシテノ佛國ヲ宣言セル趣ニテ、又聯合軍最高司令部ハ、二十七日、巴里ノ獨軍司令官ガ降伏セル旨發表セリ。

「セーヌ」下流ニ於テハ、敵ノ包圍ヲ脱セル獨第七軍主力ハ、遂次「セーヌ」河ヲ渡リ北岸ノ陣地ニ入りツツアリ。巴里東南方ニ於テハ、米軍ハ「セーヌ」ヲ渡リテ、二十八日、「マルヌ」河畔ノ「シャロ」及「シャトー、ティエリ」ニ達シ居レリ。

「ブルターニュ」半島ニ於テハ、「ブレスト」守備軍ハ、米軍ノ降伏要求ヲ拒絶シ、ソノ結果、二十七日ヨリ、米軍ノ總攻撃開始セラレタリ。

#### (二) 南佛戰線

地中海岸ノ獨軍主力ハ、「ロース」溪谷ニ沿ヒ、逐次北上撤退シツツアリ。聯合軍ハ、既ニ「グルノーブル」、「モンテリマル」ニ達シ居レル模様ナリ。

佛西國境及「ビスケー」灣沿岸守備ノ獨軍モ、「ロアール」上流へ撤退ヲ開始セルモノノ如シ。二十一日、米軍小部隊ガ、「サン、ジャン、ド、ルス」ニ上陸セル旨ノ報道アルモ、詳細不明ナリ。

#### (三) 東部戰線

二十三日羅馬尼ノ襲返リニ依リ、同方面ノ蘇軍ハ、急速ニ進出シテ、「ドナウ」三角洲地帯ニ達シ、「ベッサラビア」ヨリ退却スル獨軍ノ退路遮斷ヲ狙フト共ニ、「プロエスチ」、「ブカレスト」ニ迫リ居レリ。「プロコピナ」、「モルダビア」方面ニ於テハ、獨軍ハ、洪羅國境「ジーベン、ビュルゲン」ノ山地ニ撤退、洪牙利軍ト協力シテ、蘇軍ノ洪領侵入ヲ阻止シ居レリ。

其ノ他、蘇軍ハ、「ワルソー」北方、及「カルバート」、「ツイクセル」間ニ於テ、攻勢ヲ執リ居ルモ、戰線ニ概ネ變化ナク、「バルト」沿岸ニ於テハ、獨蘇兩軍ノ戰線ガ、相錯綜シ居レル模様ナリ。

#### (四) 伊太利戰線

「アドリア」海沿岸ノ獨軍ハ、二十一日夜、「メタウロ」河（「アンニナ」北方約五十軒）ニ撤收セリ。此ノ方面ニ於テ戰鬪行ハレ居ル外、戰線ハ平靜ナリ。

#### (五) 爆撃戰

V I ノ倫敦攻撃益熾烈ナリ。

米英空軍ノ爆撃ハ、依然主トシテ歐洲大陸ノ石油施設ニ指向セラレ居ル模様ナリ。

### 四、獨逸

總力動員措置（第二卷第三十三報第二八七頁）

總力動員措置トシテ、其後、獨逸政府ノ發表セルモノ左ノ通り。

(1) 伯林株式取引所ニ於ケル諸制限ノ強化

三〇九